

三河商人道

PART
197

青年部とは 「気分転換の場」



【会社・仕事への思い】

家業に影響を受け農学系の大学で食品学を学び、食品専門商社で勤めた後、家業に入りました。その頃会社は、味噌溜醤油醸造業から煮豆屋に転じ数年のまだ駆け出しの頃であり、入社したての私は、手当り次第に農産原料や委託製造品の輸入、新商品企画など、目の前の利益ばかりを追求していました。やがて異業種交流の場に顔を出す機会が増え、客観的に自身を考えるようになった気がします。会社のロゴマークは、自社の方向性を示すもので、豆つながりで代々の商売が展開されている特徴を更に磨いてゆく決意であり、社名の頭文字を豆でかたどって表現しました。今は自社の特徴を活かし、目先だけの利益にとらわれず、豆という素材を中心に幹を太くして、枝葉をつけてゆこうと思っています。



【青年部に入会されたきっかけ】

40歳になって、他団体でお世話になっていたデンソーパーラーの堀内先輩から、「3月末までに入会したら俺と同期入会になるから、会議所に行って入会してこい・・・」というきっかけでわざわざ3月末に入会させていただきました。



【思い出に残る青年部活動】

委員会は毎年違いどの年も思い出深かったです。特筆すべきは、委員長経験年度です。研修委員会ということで2回の研修例会を皆で企画し、例会が終わった時の達成感は格別でした。公約通り委員会後は必ず懇親会もしました。また、活動報告例会で『笑点』を寸劇風にアレンジして発表したことも思い出で深いです。練習ではメンバーからチームへ変わっていった一体感がなんとも言えませんでした。そのメンバーを中心とした方々とは、現在も康生歯科の磯村先生宅で患者の会と称して、クリスマス委員会が続いています。



岡崎市重要景観建造物に指定されている社屋

【趣味など】

下手なゴルフと茶道です。茶道の稽古は初めて6年目で趣味領域にも達していません

【青年部とは・・・】

私にとって、青年部は気分転換の場でした。仕事一辺倒で煮詰まってしまうがちな頭を、異業種の方たちとの交流により、多面的な思考になれたのではないのでしょうか。商売を展開する上でのヒント、豊かな生活を送るためのヒントを得る場としての一助であったと思います。



取材担当/渉外委員会
丸山 健一 磯部 晃作
塩田 篤志 澤田 修一
角谷 尚之 岩間 貴之
丹山 命 鳥居 直之
蒲野 功樹